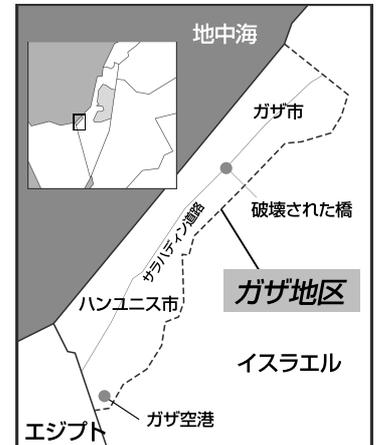


現地報告 隠される人道危機

——イスラエル攻撃下のパレスチナ・ガザ地区——

パレスチナ事業担当 藤屋 リカ



この苦難はいつまで続くのか——。

2006年7月、イスラエル軍が国境を越え、レバノンに陸と空から攻撃を仕掛けた。この動きに世界中の耳目が集まったその陰で、パレスチナの人々の暮らしは、ますます厳しさを増していた。イスラエルの攻撃によってガザ地区では電気も水も途絶え、子どもたちに栄養失調が拡大した。そのときJVCは…。現地の人々と苦難をともにした藤屋リカが報告する。(編集部)

■ 終わりなき苦難

パレスチナ・ガザ地区。地中海に面する、縦四十キロ、幅十キロにも満たない地区に百三十万人以上の人々が暮らしており、その八割以上を難民——四八年の第一次中東戦争で現在のイスラエル領から逃げてきた人々とその子孫——が占める。六七年の第三次中東戦争以降、ガザ地区はイスラエルに占領され、多くの住民はイスラエルへの出稼ぎによって生計を立ててきた。

九三年のオスロ合意によりパレスチナとイスラエルは和平に向かうかと期待されたが、その後イスラエルによる封鎖政策は厳しくなった。二〇〇〇年に第二次インティファダ（民衆蜂起）が始まり状況はさらに悪化、〇五年には一人当たりの国民所得は九九年の約半分にまで落ち込んだ。ガザ地区の空港や港もイスラエル軍により破壊された。昨年夏、ユダヤ人入植者と軍はガザ地区から撤退したが、境界・空・海はイスラエルの管理下にある。住民は地区内から出ることをさえ困難な状況にある。地区内への物資の出入りもイスラエルが管理し、特に今年一月以降、物流検問所は断続的に封鎖されている。

今年の一月のパレスチナ評議

員選挙で民主的に選出されたハマスによる政権発足に伴い、イスラエルは代理徴収している関税等のパレスチナ自治政府への送金を凍結、米国とヨーロッパ連合も自治政府への直接支援を停止した。これにより、パレスチナ自治区の貧困率[※]は六七%になり、失業率は約四割にも及ぶ。四人に一人の生活を支えている自治政府の職員の給与は、三月以降ほとんど未払い状況が続く。

特にガザ地区の状況は厳しい。パレスチナ自治政府統計局によると、四〜六月の貧困率は八七・七%にもなる。生活物資の不足で物価は高騰、住民の生活を圧迫した。乳幼児の栄養状態の悪化など、社会的弱者にも悪影響が出ている。

■ 道路も水も電気も

そして六月。ガザ地区では、イスラエル軍によるパレスチナ武装勢力への暗殺攻撃によって子どもを含む住民が巻き込まれる事件が多発した。特に、海岸で家族七人がイスラエル軍の砲撃とされる爆発で死亡する事件もあり、パレスチナ人の悲しみや怒りは高まっていた。六月末、パレスチナの武装組織がイスラエルの軍事基地を襲撃、イスラエル軍兵士二人を殺害し、一人を捕

虜とした。イスラエルの刑務所

に収監されているパレスチナ人の解放を要求したが、イスラエルはこれを拒否し、イスラエル兵の救出とパレスチナ武装勢力の手製のロケット弾の掃射を目的としてガザ地区へ侵攻した。侵攻は現在（九月末時点）も続き、これまでに二百人以上のパレスチナ人が死亡、半数以上は武装勢力とは関係のない市民であり、多くの子どもも巻きこえられている。

侵攻の初期にイスラエル軍が拠点としたのは、〇一年にイスラエル軍によって破壊され封鎖が続くガザ空港だった。この空港は日本からの多額のODA（政府開発援助）によって建設され、九八年に開設したばかりだった。空港の近くは貧しい農村地区だが、侵攻のために農地は戦車の通り道となり、一部の家屋は破壊された。家を失った八人の子どもの父親は、自分の家族は武装勢力とは関係がないと語り、「どうやって生活していったらいいのか」と途方にくれていた。

ガザ地区の南部と北部を結ぶいくつかの橋も破壊された。日本政府はUNDP（国連開発計画）を通して、ガザ地区の中央を縦断するサラハディン道路の修復支援のために千九百万ドルを拠出してきた。日本のODAでの補修対象であるこの道路に架か

注① 貧困率：一日2ドル以下の生活を強いられている人々の割合。



■生活用水を運ぶロバの荷車



■空爆によって破壊された橋



■栄養食を準備する母親たち



■水汲み場に殺到する人々

る橋も破壊され、補修どころではなく再建が必要になってしまった。これらの橋はワディ(枯れ川)に架かっていて、夏は乾季で橋の横の道を通れるが、冬の雨季には水が溢れて通れなくなる。巡回診療で地区内を回っている看護師のハナンは、「完全に破壊された橋がすぐに修復できるとは思えません。冬に川が渡れなくなると、人々が病院に行くことさえ困難になることが心配です」と言う。

また、イスラエル軍は地区の約半分の電気をまかなっている地区唯一の変電所を空爆した。これによって地区内では停電が頻発し、浄水施設も機能しないために人々の生活用水さえも不足した。南部のハンユニニ市の公営の水汲み場には、空のペットボトルを持った子どもからロバの荷車にタンク乗せた人までが殺到した。

子どもたちにとっても状況は厳しい。スイカは子どもが楽しみにしているおやつで、スイカを積んだロバの荷車はガザの夏の風物詩である。しかしこの夏は、スイカを積んだ荷車は父親たちに追い返されてしまった。安いスイカさえ買えないので、子どもがかわいそうとの理由だった。おやつどころか一日に一回食べられるかどうかだと語る母親もいた。献立は安価なジャガイモとトマトの繰り返しで、肉屋から骨をもらってきて味をつけるなどして、子どものために工夫をしていた。

■栄養失調の子どもたち

JVCでは〇三年からガザ地区の幼稚園で栄養改善支援をしている。今年の二月以降、幼稚園の月謝が払えない子どもが急増した。朝食を摂れる子どもは約一割しかおらず、幼稚園に食料援助を頼みに来る親もいた。

四月、子どもの栄養を専門とする現地のNGO「人間の大地」のセンターで栄養失調児の来所者数が倍増したことから、JVCは「人間の大地」と協力して五月から緊急的な栄養支援を開始した。内容は「人間の大地」のセンターでの栄養失調児への栄養食の提供と母親への栄養指導で、食材、栄養指導と調理担当の看護師の人件費、母親がセンターに来るた

めの交通費も支援している。栄養食は、ガザ地区内で入手できる季節の新鮮な食材を用いたものを一日二度子どもたちに提供している。安価で手に入りやすい野菜や豆、芋、それに栄養のために肉も加えたスープと季節の果物のジュースだ。また、母親は入手可能な材料での栄養食の作り方や栄養について学んでいる。当初三カ月の予定で支援を開始したが、六月末からの状況悪化に伴い、十一月末まで延長、その後も検討が予想される。

JVCも加盟するパレスチナで活動する約七十の国際NGOの連合体AIDAでは、ガザの人道状況の実態調査結果を報告、改善に向けての声明を五月に出した。JVCとしては、日本政府にイスラエルの軍事侵攻への抗議の要請書を提出し、また、AIDAから出されたガザの民間人の保護及び人道状況の改善に関する声明を日本に発信した。

緊急支援のたびに、「このような支援をしなくても良い時がいつ来るのだろう」と感じずにはいられない。目の前の子どもたちが一人でも助かることを願いつつながら彼らとともに働いているが、同時にこの状況が社会構造から改善していくように声をあげながら関わらなければならぬと強く再認識させられる。

注② 集団懲罰：弾圧などが実施される際に、その対象の周辺に存在する、対象と無関係の人々に対してまでその被害・影響を及ぼすこと。